

路上禁煙条例と喫煙の思い出

写真は市の広報掲示板に掲載されているポスターである。名古屋市は3月17日に施行された「安心・安全・快適条例」により、名駅・栄・金山・藤が丘の4地区を路上禁煙地区に指定した。路上禁煙地区を指定することにより、タバコによる迷惑を防止して、「安心・安全・快適」なまちを旨とするというものだ。余談だが、このポスターに登場している森本レオに似ているといわれたことがある。レオよりタイガー(寅)のほうが好きだが、どうもレオのことも気になる。



路上喫煙禁止の先駆けとなったのが東京都千代田区である。2002年10月に制定された路上禁煙条例では、区域の52%を規制対象としており、違反すると2000円の過料が科される。この千代田区では喫煙所は設けていないが、市内全域が対象の千葉県柏市では「駅前広場の中央には、大型の据え置き型灰皿を数台並べた喫煙所が設けられ、入れ代わり立ち代わり喫煙者がやってきてはプカプカ。禁煙地区を知らせるアナウンスが流れる中、最も目立つ場所で煙がたなびく。」(8日付け読売新聞)名古屋では喫煙所を設置していないが、路上喫煙を禁止している自治体の半数近くが設置しているという。

じつは私も10数年前までは喫煙していた。その頃は喫煙に対して現在ほど風当たりは強くなかったが、「あること」を契機に禁煙することにした。それは知り合いを見舞いに病院に行った時に、患者さんらしき人が「喫煙コーナー」で喫煙しているのを見たことである。どうして病気をしてまで、喫煙するのかと思いながら病院をあとにした。あまり抵抗なく禁煙することになったが、いったん禁煙してからはタバコ嫌いに転じた。今まで迷惑をかけてきたことを反省しつつ、新幹線に乗るときも禁煙車両しか乗れなくなった。煙が立ち込めるパチンコ店にも入ることはなくなった。

路上禁煙の動きを見ながら、わが「喫煙時代」をなつかしく思い出した。

(5月12日 記)